

いっすんぼうし ひめぎみ 一寸法師 3：姫君

「一寸法師」は、御伽草子と呼ばれるジャンルの作品です。御伽草子は物語の一種です。比較的短くて単純な筋書きを持つものが多く、南北朝時代・室町時代にさかんに作られました。この時代になると物語の読者層は庶民にまで広がり、御伽草子は女性や子どもを中心に多くの人々に親しまれました。

御伽草子は300編ほどが現存しており、その内容から6種に分けられています。公家物、武家物、宗教物、庶民物、異類物、異国物の6種類です。

テキストとして取り上げた「一寸法師」はそのうち庶民物に属します。庶民物には、身分の低い者が才覚によって出世し、高貴な女性と結ばれるといったサクセス・ストーリーが少なくありません。「一寸法師」はそうした立身出世談の典型と言えます。

「一寸法師」というタイトルは主人公の呼び名で、この主人公の背丈が一寸(約3cm)しかなかったことから来ています。

一寸法師は十六歳になりましたが、背丈は相変わらずです。宰相殿の美しい姫君に恋をした一寸法師は、姫君を妻にしたいと思い、計略をめぐらします。

宰相殿が一寸法師に騙されて姫君を追い出すという筋書きにはちょっと無理があるようですが、それはともかく、一寸法師には、姫君と旅をするという、またとない好機が訪れます。

ほんぶん しゅってん
本文の出典：

おおしまたてひこ わたりこういち こうちゆう やく むろまちものがたりそうししゅう しんべんにほんこてんぶんがくぜんしゅう
大島建彦・渡浩一 校注／訳『室町物語草子集』(新編日本古典文学全集63)

しょうがくかん ねん
小学館、2002年